

# 図書館報

— ビブリオテカー —

# Βιβλιοθήκη

「βιβλιοθήκη」はギリシャ語で図書館のことです。

## 第 47 号

2026年2月26日発行

北陸学院中学校・高等学校  
図書館委員会

〒920-8563 金沢市飛梅町1-10  
TEL.(076)221-1944

印刷所 株式会社橋本確文堂

私は高校の図書委員長になり、「韋編三絶」を年間目標として活動してきました。「韋編三絶」とは、何度も繰り返し本を読むこと、また、学問に熱中することのたとえです。本が嫌いな人、あるいは嫌いではないが本よりもSNSやゲームを優先する人が増える中、本を読むことの大切さを知ってほしいと思います、この年間目標にしました。というのも、私自身高校に入るまで全くと言っていいほど本を読んでこず、時間があればSNSやゲームに明け暮れていました。しかし高校に入り、朝の読書時間に本を読んでいたら、もっと本を読む時間が欲しいと思うようになり、しいにはなぜ今まで本を読んてこなかったのだろうと後悔しました。それは、本を読むことで見える世界が広がり、身の回りで起こる物事に対する考えも深くなったからです。また、本を日常的に読むことは語彙力や文章力の向上に繋がる一方で、大学受験を考える私にとっては、それだけでも後悔するには十分な理由でした。つまり、本を読むことがどれだけ自分のためになるかをまだ分からない人に、少しでも本に触れるきっかけを作ろうと思ったということです。

上記のことを達成するために、図書委員は様々な活動を行ってきました。本との距離が遠い人に、本を身近に感じてもらう触れやすさすることを目標にしました。本との距離が遠い人の気持ちを理解しているのは、他でもなく私です。過去の自分が何を求めて何に心を動かされたかを思い出し活動しました。そして、かつての自分がそうであったように、本との距離が近くなった時、初めて本の大切さに気がつくとそう信じて活動しました。

このことが顕著に現れていたのは、ミッション祭だと思っています。今年のミッション祭では「Gimmick Game」、平たく言えば、「脱出ゲーム」を行いました。一見、図書委員会の活動とは、関係ないように見えますが、これは、まず図書館という場に足を踏み入れてもらうことが目的でした。脱出ゲームというアクティブな活動は本への堅苦しいイメージを払拭できると思いました。そもそもなぜ本が好きではなかったのかを考えてみると、読書感想文などの宿題のせいだったように思います。本に対する間接的なことであつたのに、無意識にその仲介役を飛ばし、間接的物事として原点に結び付けたこと（本を読んだ、感想を書くことが、面倒↓本を読むことが面倒↓という誤認）が、私から本を遠ざけた原因だったのです。このことを逆手に取り、「Gimmick Game」を考えました。図書館という本と人を繋ぐ仲介役に楽しい記憶を持ってもらうのです。それこそが、本を読むという行動に移るために、距離を近づけるために必要な過程だと思えました。

## いへんさんぜつ 韋編三絶



ミッション祭では、開場前から待っている中学生、図書委員だけどゲームをしてみたいという高校生の声、そして閉場間際でも楽しく遊ぶ小学生まで見ることができ、素晴らしい達成感を味わえました。

大半は過去の活動を引き継ぎました。しかし、私の中では敬意を払い、先輩方は何を思ってその活動を探り入れたのか、その活動の意義は何なのかを考え活動してきました。その結果として、私の色が現れていたなら幸いです。私が立派なことを成し遂げたと言えは嘘になりますが、過去の立派な活動をしっかりと引き継いだと言えはと思います。もちろん私一人ではできなかったことではありますが、何も分からなかった私にヒントを与えてくださった先輩や全ての活動にお力添えいただいた司書さんと

顧問の先生、共に苦心惨憺した副委員長、活動を支えてくださった図書委員の皆様、一年間本当にありがとうございました。

(209H 北出ひまり)

今年度のミッション祭において図書委員会では「謎解き」の体験を行い、多くの方に参加していただき、大変盛り上がりしました。特に印象に残ったのは、今年から再開した夏のオープンスクールに来てくださった中学生の皆さんが、ミッション祭への参加パスを使って図書館に足を運んでくれたことです。「謎解き」を始める前から楽しみにしている様子を見て、とても嬉しく思いました。中学生が帰る際に「楽しかったです。ありがとうございます。」と声をかけていただき、図書委員会の一員として参加できて本当に良かったと心から感じました。この経験をきっかけに、もっと多くの生徒が図書館に足を運んだり、図書委員会に興味を持ってもらえたら嬉しいです。活動を通して、相手にわかりやすく伝えることの大切さを改めて学びました。これからの経験を活かして、より良いコミュニケーションを心がけていきたいと思います。

(304H 東 澄乃)

企画内容  
**ミッション祭**  
 8月30日(土)  
 「謎解き」「POP展示」

### 〈本に関するアンケート〉

後期図書委員45名にアンケートを行いました。

Q. 本は好きですか？

①好き 35.6%

②どちらかといえば好き 26.7%

③どちらでもない 28.9%

④どちらかといえば嫌い 2.2%

⑤嫌い 6.7%

Q. 本を読む頻度は？

①毎日 13.3%

②週に数回 11.1%

③月に数回 24.4%

④ほとんど読まない 28.9%

⑤全く読まない 22.2%

Q. 読書の習慣は学力や成績に影響すると思いますか？

①思う 62.2%

②思わない 13.3%

③わからない 24.4%

アンケートの結果、本を読むことが好きな人が6割いて、勉強や部活で忙しいはずなのに本を読む頻度が高い人がいて驚きました。読書の習慣が学力に影響すると思う人が6割いて嬉しかった反面、活動を通してもう少し増やせていたらよかったですと思いました。



イラスト：岡崎 咲那

### 高校1年生探究学習

#### 自分の興味・関心に 気づき向き合うために

本校の高校1年生は毎年、理科と図書館がタイアップして「サイエンスQuest」と呼ばれる、本選びからレポート作成、ビデオバトル(本の紹介)、生徒同士の相互評価までを一つのサイクルとした探究学習・STEAM教育を行っています。今年度は、特別進学コースが夏休みから9月にかけて、総合進学コースが冬休みから1月にかけて実施しました。この活動では、まず生徒は図書館にある『科学道100冊』シリーズから1冊の本を選びます。『科学道100冊』とは、科学者のものの見方や考え方を知り、身のまわりのものに疑問、興味をもてるような本を届ける理化学研究所の事業です。自然科学の内容に限らず、哲学や歴史、地理などの本もあり、本校図書館にはシリーズ全体で約500冊の蔵書があります。生徒は、それらの本を手にとるときに、何かしらの思考や感性がはたらいっています。自分の将来の夢と関連している、内容が自分の好きなことだ、小さいときに自分も同じような経験をした、表紙の絵や言葉が自分の心に響いたなど、そのスイッチは生徒によって様々ですが、この活動を通して今まで漠然としていた自分の興味・関心に気づき、それをはっきりとメタ認知していきます。もちろん、その後のレポート作成



やビデオバトル、相互評価を通して生徒に身につけてほしい資質・能力もあるのですが、まずは「自分とは何か?」「自分の興味・関心は何か?」に向き合うことを「サイエンスQuest」では大切にしています。それができないとその後の探究学習も進みませんし、逆に高校1年生で自分の興味・関心をしっかり認識することができれば、その後の進路決定にも大きな助けとなります。社会はますます複雑になり、若者たちが自分とは何かを見つけにくい時代になっています。一人ひとりを大切にする本校で自分自身と向き合う経験を積むことで、賜物に気づき、自分が世界や隣人に対して何ができるかという使命を見つけてくれれば、理科教員、図書館職員一同嬉しく思います。  
(理科・司書教諭 岡崎 裕二)

### POP講座

6月3日(火)

うつのみや金沢香林坊店の伴響さんを講師としてお招きしました。生徒10名が参加しました。POPを作るときのコツを教えてくださいました。

私はこれまで、POP講座に3回参加し、今回が4回目の参加でした。今回のPOP講座に参加して、改めて「POPはすごく奥深いな」と思いました。POPとは読者に本の魅力を伝えるものであり、そのためには、短い言葉で本の魅力が伝わるようなキャッチコピーが必要です。学んだことを実際に試してみたいと思い、思い切ってPOPコンテストにも応募しました。講座で得た視点や工夫を実際に形にしてみることで、より深くPOP作りについて理解できたと思います。また、今回のPOP講座で作成したもののだけではなく、これまで参加してきたPOP講座で作成したものも合わせて応募しました。「あの時はこういう意図でこのキャッチコピーを作ったな」や「今ならもっと表現できるかも」と、自分の成長や変化にも気づくことができました。実際にPOPを準備する中では、「どんな言葉なら読者が手に取りたくなるだろう」や「この本の魅力をどうしたら一番伝えられるのか」と何度も自分に問いかけ、POP講座で学んだ工夫を細かく取り入れなが



ら試行錯誤しました。この経験からPOP作りの面白さ、奥深さをさらに強く感じることができました。これまで読者側だった私が本を読むためではなく、本を薦めるための言葉に焦点を当てたことで、POPの見方や本の見方が変化しました。これからもPOP講座で培った見方の変化や学びを生かしていきたいと思っています。そしてキャッチコピーの大切さを意識して、これからも本と向き合っていきたいと思っています。今回POP講座の講師としてお越しいただいた伴さんには自分では気づくことのできなかった「読者に届ける言葉」を作ることの難しさや面白さを教えていただきました。貴重な経験を与えてくださり心から感謝しています。本当にありがとうございます。  
(310H 岡崎 咲那)

高校 第49回校内読書感想文コンクール



『ひやくはち』

著者・早見 和真



105H 木野 汐音

私はこの本を読んで青春はきれいで... 流して頑張ることや、仲間と笑い合... 裏にはうまくいかない悔しさや、や... せられない気持ちもしっかりある。そ... れらが全部混ざって高校生活や青春... になるんだと感じた。読んでい

と、何回も自分の中学での部活や友... 達のことを思い出した。中学から部... 活をやってきたけれど、努力すれば... 必ず結果が出るなんてことはない。

どんなに頑張っても報われないこと... はあるし、逆にそこまで頑張らなく... ても結果が出る人もいる。その不公... 平さに悔しい思いをしたことが何度... もあった。だから、登場人物の気持... ちはすごくよくわかった。

特に心に残ったのは、仲間との距... 離感だ。一緒にふざけて笑い合える... 相手でも、いざ競争相手になると少... しモヤッとした気持ちが出てくる。

本気で応援したいけれど、同時に羨... ましい気持ちもある。そういう感情... はきつと誰でも持っていると思う。

私も、仲の良い友達が自分より良い... 背番号をもらっていた時、すごいと... 思う反面、心の中で複雑な気持ちに... なった。表面ではおめでとうと言

ながら、自分の中に小さな棘のよう... な感情が刺さっていたのを覚えてい... る。あの時の自分を思い出して少し... 胸が痛くなった。

努力と才能についても考えさせら... れた。本などでは、努力は裏切らな... いと何度も言われてきたけれど、実... 際はそうではないこともあると思

う。しかし、それでも努力を続ける... 人はきつと結果よりも過程を大事に... しているのだろう。私も、大会やテ... ストで思うような結果が出ず、もう

やめたいと思ったことがある。しか... し今になって思うと、その時の努力... や経験はしっかりと今の自分に繋... がっている。すぐには意味が見えな... くて、時間が経ってから気づくこ

とがあるのだと思う。本の中で特に印象に残ったのは、... うまくいかなかった時間の描写だっ... た。成功の瞬間ももちろんあるけれ... ど、失敗や挫折のほうが強く心に... 残った。きつと現実の高校生活や人... 間関係もそうで、うまくいかない時

間のほうが多いのだと思う。その中... で、どう過ごすか、どう自分と向き... 合うかで、その後の自分は変わって... いくのかもしれない。私も試合で負... けた後に車の中で泣いていた時を思

い出した。この時、自分の弱さや悔... しさと向き合った気がする。友... 情についても見方が変わった。友... 達はお互いの成長を喜び合うもの... だと思っていたけれど、嫉妬や対抗... 心があっても、それで壊れる友情は... かりではない。そういう感情も含め... て、相手のことを受け止められるか... どうかが本当の友達かどうかの分か... れ目なんだと思った。もし、自分が... 相手の立場だったらどう感じるか、... そんなことも考えるようになった。

そして、時間が経ってからのあの頃... の自分は必死だったなと笑える日が... 来る。そのためには今を全力で生き... なくてはいけない。

この本を読み終えたとき、もつと... 今の高校生活を大事にしようと思っ... た。勉強や部活だけではなく、友達... との何気ないおしゃべりや放課後の... 寄り道も、きつと将来は特別な思い... 出になるはずだ。何もなかった一日... も、振り返れば宝物になるかもしれ... ない。これまで私は、結果ばかりを... 見ていた。でもこの本を読んで、結... 果が出なくても意味のある時間はあ... るとわかった。努力や経験は、すぐ... に役立つなくても、どこかで必ず自... 分を支えてくれると信じたい。

野球や部活をしていない人でも、... この本はきつと共感ができると思... う。夢を追う気持ちや人間関係の難... しさ、そして時間が過ぎていく切な... さは、誰にでもあるのだから。読ん... でいると自分の学生生活を振り返り... たくなるし、今をどう生きるかを自... 然に考えてしまう。この本を読んだ... 経験は忘れられないと思う。数年後

た読み返したら、きつと違う感想を... 持つはずだ。その時に胸を張って高... 校時代を思い出せるよう、これから... も毎日を全力で過ごしていきたい。

審査結果

夏休みの宿題として提出された読... 書感想文を対象に、「校内読書感想... 文コンクール」を開催いたしました。

次の通り、審査結果をご報告いたし... ます。なお、受賞作品は、学校代表... として石川県読書感想文コンクール... に出品し、「優良賞」を受賞したこ... とを併せてご報告いたします。

☆最優秀賞 209H 田中 雄大

『夜の日記』

☆優秀賞 『エンド・オブ・ライフ』 209H 北出ひまり

☆優良賞 『星の王子さま』 107H 豊島 油果

『ひやくはち』 105H 木野 汐音

『銀河の図書室』 207H 田川 愛和

『おいしい季節がやってくる。』 206H 北野 咲空

みなさんの作品から、さまざまな... ジャンルの本を読んでいることや、... 自分の言葉でその世界を描こうとす... る瑞々しい感性が伝わってきました。

私たちは、言葉によって自らの... 世界を形作っています。目に映るも

の、心に想うことも言葉です。どう... ぞ、たくさん本に親しみ、自分の... 中に言葉を蓄えていってください。

選書会 9月12日(金) 今回は図書委員有志9名が、本校図書館の蔵書にしたい本を選びました。選んだ本は選書会コーナーに設置してあります。

放課後にうつつのみや金沢香林坊店... に行つて、図書委員会活動の選書... をしてきました。自分は本屋に行つ... ても、漫画コーナーにしか行きませ... ン。今回漫画以外の本を選んだのは初... めでした。学校の図書館に本を置く... ため、本選びを慎重にしました。自... 分が選んだ本は、最近興味がある音... 楽の本を選びました。

本を選んでいいる時、友達と騒がし... くしてしまつたので、次回本屋に行... くときはマナーを守つて、楽しく本... を選びたいと思いました。本屋には... 有名な本がたくさんあり、さらに英... 語パージョンの『走れメロス』や童... 話が置いてあったので驚きました。

自分の興味のある本がたくさんあつ... たので、次に本屋へ行くときはその... 本を買いたいと思いました。

選書会に参加して、貴重な経験に... なりました。ありがとうございました... (101H 林 蒼大)

# 中学校 図書委員会

## 図書委員長になって

中学2年 平井 由乃

私は中学校の図書委員長として1年間、図書委員として2年間活動してきた、これまでより積極的に行動ができるようになったと思います。他の委員会より、特別活動が多い図書委員会のトップとして、自分にできることを考え、先生や司書の方と共に準備から活動まですることができ、積極的に行動する力がつきました。

図書委員長は多忙ですが、とても楽しい図書委員会の一員として活動ができ、自分の成長につながり、とても嬉しく思います。これからも図書委員会の活動で、少しでも図書館に来る人が増え、本に興味を持ってもらえたらと思います。



読書会の本は何かがいいかな？

**前期図書委員会活動**  
図書委員長(2年)と各学年2名ずつ合計7名で活動しました。

## クラス図書を選定

中学3年 池野 紺  
安田 瞳

私たちは半年間図書委員を務め、たくさんさんのクラス図書の本を選んできました。私たちはクラスにどのような内容の本が、その時期にふさわしいかということ意識しながら、クラスのために毎回本を選んできました。「どんな本だったら皆が手に取ってくれるだろう」と考えながら選ぶことは難しく、時間がたくさんかかりました。教室に置いた本が少しずつ読まれていくのを見るととても嬉しい気持ちになりました。また、選んだ本が誰かの読書のきっかけになったということにもやりがいを感じました。

図書委員会の活動を通して、本を選ぶ楽しさを知ることができました。これからも図書館に足を踏み入れ、いろいろなジャンルの本に挑戦したいと思います。

## 「読書会」に参加して

中学1年 安河内 星良

私は初めてG・モーパッサンの『首飾り』という本を読みました。『首飾り』は、貧乏だが美しいマチルドという女性が、舞踏会のために裕福な友人から借りたダイヤモンドの首飾りをなくしたことから始まる物語です。私はこの作品から、1つの怠りから人生を左右させてしまうことを身にしみて感じました。しかし、人は他人に厳しく自分に甘い生き物です。人は過ちを犯し、そこから学びます。マチルドはダイヤモンドの首飾りの借金を返すために、10年間も働きます。こうしてマチルドは苦難を乗り越え、たくましくなりました。ラストは本当に面白かったと思いました。本好きな人はぜひ読んでみてください。



自分の意見が言えました!!



実施日 6月4日(水)  
参加生徒数 7名

全国学校図書館協議会  
集団読書テキストより  
『首飾り』  
G・モーパッサン著  
新庄嘉章訳

私は2年連続で選書会に参加しました。興味のある本を次々に手を取っていきました。また、今年とは去年とは違った発見もありました。去年の選書会では、同じようなジャンルの本が多く入りましたが、今年は本当に色々な本が入りました。ミステリーや新書、ライトノベル、ノンフィクションなど、多様なジャンルの本が入りました。たくさん本が入ったので、是非図書館に足を運んで、本を手にとってほしいと思います。

## 「選書会」に参加して

中学2年 金光 悠成

私は2年連続で選書会に参加しました。興味のある本を次々に手を取っていきました。また、今年とは去年とは違った発見もありました。去年の選書会では、同じようなジャンルの本が多く入りましたが、今年は本当に色々な本が入りました。ミステリーや新書、ライトノベル、ノンフィクションなど、多様なジャンルの本が入りました。たくさん本が入ったので、是非図書館に足を運んで、本を手にとってほしいと思います。



色々なジャンルの本を選びました!



実施日 10月10日(金)  
参加生徒数 14名  
場 所 うつのみや  
金沢香林坊店  
入った冊数 42冊



入学からの1年半で336冊の本を読みました!

## 図書館通帳コンプリート

中学2年 中村 颯汰

図書館通帳を1冊達成した中村です。入学してから約1年半、今年度の9月に図書館通帳を1冊コンプリートしました。僕は中学校に入ったら、1つでも記録を残したいと思い、頑張って図書館通帳を1冊コンプリートしようと思いました。それから僕は、何回も何回も図書館に通い、通帳に記録を残しました。そして、図書館通帳を1冊達成することができました。岡崎教頭先生から賞状と副賞(自分の好きな本1冊)をもらいました。これらをもらった時、僕は「本当にコンプリート出来たんだ」とより深く思いました。

最後に皆さんもたくさん本を借りて、図書館通帳に記録を残してみてください。応援しています。

# 中学校 第50回 校内読書感想文 コンクール

## ☆最優秀賞

図書『バッタを倒しにアフリカへ』  
中学2年 金光 悠成

## ☆優秀賞

図書『星の教室』  
中学2年 二木 那琉  
図書『わたしは食べるのが下手』  
中学1年 岡本 夏蓮

3名の作品は、本校代表として金沢市読書感想文コンクールに選出されました。

2025年度  
校内読書感想文コンクール  
最優秀賞

金沢市中学校  
読書感想文コンクール  
課題図書部 優良賞

図書  
『バッタを倒しにアフリカへ』  
前野 ウルド浩太郎著

題名  
『「バッタ」と出会う』  
中学2年 金光 悠成

好きなことがあり、それを追求し、職業までしてしまう人には本当に憧れる。この本の筆者である前野ウルド浩太郎さんもその一人だ。幼い頃からバッタが好きで、ファープルに憧れ、昆虫学者になりたいと思っていた筆者は、本当にその夢を叶えた。

そのプロセスを、この本を読んで知ることができた。筆者の体験から教えられたことが幾つかあった。

まず、好きなことを職業にするには、その好きなことを本気で愛さなければならぬということだ。筆者は、バッタが大量発生し、農業に甚大な被害をもたらす問題を解決して成果を上げ、就職につなげるため単身アフリカへ渡った。しかし、干ばつによりバッタが発生しない事態が起きた。筆者はバッタ研究ができなくなってしまう。そこで、一度帰国し、バッタのことを広める活動をしようと考えたが、ここに少し問題があった。

研究者が、広報活動をして自分の名を売ろうとすることはあまり好まれていないらしい。これは昆虫学に限らないという。哲学者である私の父も広報活動をして研究者仲間から、白い目で見られた経験があるそうだ。なぜ広報活動がいけないのか。それは、広報活動をしている時、研究をして論文を書く手を休めているということになるからだ。筆者は、それを分かっていたのにも関わらず、広報活動を始めた。なぜそんなことができたのか。

バッタについて、多くの人に興味を持って欲しい、そして研究費を得てアフリカに戻りたいという気持ちは、バッタを愛する証拠であろう。恋人には、人目を気にせず愛の気持ちを伝えるのと同じことで、筆者も他の研究者からけむたがられるのにも気にせず、バッタのために広報活動をしようと思えたのだと思う。

僕もそんな恋人のような好きなことと出会って生きていきたい。

次に、人生には「下を向いて歩く」のが良い時期があるということ。人生を歩んでいくと、何度か挫折することがあると聞く。筆者は、バッタ研究ができない時がそうであった。その時筆者が勤めていた研究所の所長から、こんな言葉をもらったという。「あなたが不満をもっているのなら、周りを見回してあなたが置かれている環境に感謝すべきだ。幸運にも私たちは必要以上に物を持っている。際限なく続く欲望に終止符を。」

この言葉は、中学生である僕にもグサリと突き刺さった。僕はわがままであった。物欲もそうだが、学校に対しての不満が多かった。そもそも学校に行きたくて勉強できているということが当たり前ではなかった。学校に行けない人もたくさんいる。筆者は、「これからつらいときは、涙がこぼれてもいいから、下を向き自分の幸せを噛みしめることにしよう。」と思ったという。自分の置かれている環境に感謝する。これは生きていく上で最重要かもしれない。忘れないようにしよう。

最後は、夢を叶えるためには、運が良くないといけないが、その前にたくさんの努力が必要だということ。当たり前すぎることなのだが、この本を読んで再認識できた。努力をしないと、運も味方しない。努力をすることによって、ようやく夢が叶う可能性がうつつすらと見えてくるのだ。

この本の終盤に、こんな言葉があった。「夢を追うのは代償が伴うので心臓が悪いけど、叶ったときの喜びは病みつきになってしまう。叶う、叶わないはおいといて、夢を持つと喜びや悲しみが増えて、気分よく努力ができる。」

夢がある人は輝いて見える。それは、その人が夢に向かって努力していることを知っているからだ。筆者は、つらい時期を乗り越え、現在は国際農林水産業研究センターの研究員として、日本とアフリカを行き来して、バッタの研究を続けている。筆者曰く、昆虫学者として今働けていることは、多くの人々が応援してくれたからだという。それは筆者が努力しているのを、周囲の人達が気付いていたからだろう。僕も夢に向かって努力して、周囲の人達から応援されるような人になるために頑張りたい。

このように、この本を読んで、これから生きていく上での必要事項を幾つか知ることができた。また、前野ウルド浩太郎さんという筆者の、1つの人生を知ることができた。バッタに出会えた前野さんは幸せだったと思う。僕もはやく「バッタ」に出会いたい。



クラスみんなはどんな本を読みたいかな？

### クラス図書10冊は教室に設置



図書館に足を運んでもらえるようにスタンプラリーをしてみたらどうかな？

後期図書委員会活動  
図書委員長(1年)と各学年2名  
ずつ合計7名で活動しています。

# 高校生選書会 購入図書リスト

- 『VTuberサプーが教えるーPython初心者コード/プロのコード』 サプー
- 『恋のありがち』 青春bot
- 『令和ファシズム論』 井出 英策
- 『中学生・高校生向けアンガーマネジメント・レッスン』
- 『スーザン・ジングラス・フィッチェル』
- 『世界で一番美しいクラゲの図鑑』 リサリアン・ガッシュウイン
- 『死ぬまでに見たいー絶景のペンギン』 菊水 健史
- 『最新研究で迫る犬の生態学』
- 『世界の飼い犬と野生犬』 トム・ジャクソン
- 『センスの哲学』 千葉 雅也
- 『わらういきもの』 近藤 雄生
- 『知識ゼロからのピアノと楽譜入門』 CANACANA family
- 『美しい文学を読んで英単語を学ぶ』 杉山 靖明
- 『オズの魔法使い』 フランク・ボーム
- 『そして誰もいなくなった』 アガサ・クリスティ
- 『イン・ザ・メガチャーチ』 朝井リョウ
- 『挿絵の女』 有吉佐和子
- 『冷蔵庫探偵蔵前怜子』 遠藤 彩見
- 『或るバイトを募集しています』 くるむあくむ
- 『読むと死ぬ本』 彩藤アザミ
- 『怪異』 推葉 伊作
- 『ひきこもり家族』 染井 為人

『あの日の交換日記』 辻堂 ゆめ  
『さらば！店長がバカすぎて』 早見 和真  
『ねごと、たわごと、えぞらごと』 暇 十朗

『四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて』 村上 春樹

『イシナガキクエを探しています』 夜馬 裕  
『サロメの断頭台』 夕木 春央  
『陰態の家』 夢枕 獏  
『みらいめがね3』 荻上チキ/ヨシタケシンスケ

『短編回廊』  
『NO.6再会』 1.2 あさのあつこ  
『昔ばなしで学ぶ日本語』 Eriko Sato/Anna Sato

『緑の箱庭レストラン』 編 乃肌 知念実希人  
『スワイプ厳禁』

## 図書館報告

『テーマによる展示』  
図書館内では、毎月テーマを変えて、本の展示を行っています。

- 4月 図書館へようこそ(絵本)
- 5月 朝井リョウ特集
- 6月 相撲特集
- 7・8月 「校内読書感想文コンクール」課題図書
- 9月 北陸学院関連(創立記念)
- 10月 坂口安吾特集
- 11月 小泉八雲・セツ特集
- 12月 クリスマス絵本
- 1月 今年は馬年！
- 2月 「豊臣兄弟！」特集

『先生おすすめの本』  
先生による「おすすめの本」を生徒に配信、図書館展示しました。

6月 大西 晶子(国語科)  
『いのちをむすぶ』 佐藤 初女

9月 東出拳士郎(体育科)  
『超筋トレが最強のソリューションである』 Testosterone/久保 孝史

11月 安達 礼奈(体育科)  
『1リットルの涙』 木藤 亜也  
『読書スタンプラリー』  
10月14日(火)〜11月7日(金)  
秋の読書週間にあわせてスタンプラリーを実施しています。今年度もスタンプを集めた利用者のべ15名には、書店提供の豪華景品を渡ししました。

(司書 大音師華子)

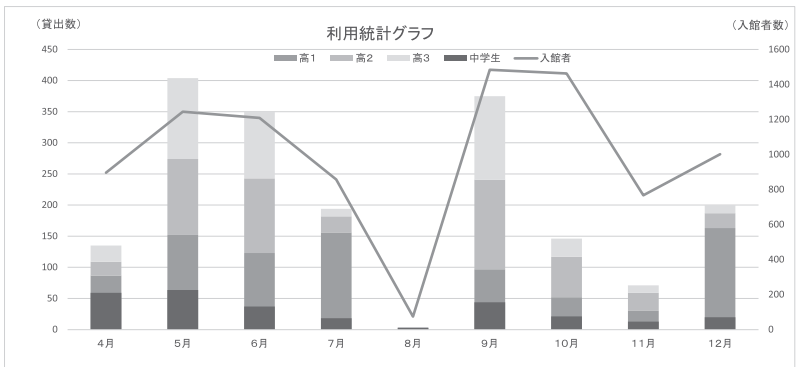
## 図書館利用統計

4〜12月  
『個人貸出BEST3』  
★高校生

- 1位 106H 神谷 奏実 66冊
- 2位 203H 河端 心維 61冊
- 3位 104H 小泉 沙織 42冊
- ★中学生
- 1位 2年 中村 颯汰 291冊
- 2位 1年 小山 瑛人 91冊
- 3位 2年 笠原 由衣 68冊
- 『貸出作品BEST3』
- 1位 ほどなく、お別れです 長月 天音
- 2位 変な家 雨 天音
- 3位 ヨモツイクサ 知念実希人

『貸出作家BEST3』  
1位 知念実希人  
2位 東野 圭吾  
3位 時雨沢恵一

貸出利用冊数	2023年度	2024年度	2025年度
高校1年	870	995	862
高校2年	445	489	554
高校3年	532	619	463
中学1年	170	839	344
中学2年	150	204	598
中学3年	108	122	46
教職員等	533	434	288
合計	2,808	3,702	3,155



『先生から』  
「韋編三絶」を北出委員長が今年度のスローガンに掲げました。本を読むことで、「人生に彩りを与える豊かな感性を持ち、あらゆる力を向上させていこう！」とスタートをしました。今年度も学級文庫の継続や、「#The Mission Times」で図書・図書館情報を皆さんにお伝えし、文化祭で脱出ゲームなど様々な企画に挑戦する図書委員会を陰ながらサポートさせてもらいました。

あなたの心の中には、「もっと詳しく、もっと具体的に知りたい」という静かな、しかし確かな声が響いていませんか。その大きな好奇心を満たし、知的好奇心という名の翼を広げる役目を果たせるのは、他でもない本しかありません。

本は、過去の賢人や、今を生きるプロフェッショナルの思考を、時間や空間を超えて直接あなたに届けるパスポートです。一人でも多くの皆さんがこの図書館に足を運び、人生を変える一冊と出会うことを心から楽しみにしています。

(高校図書委員会担当 渡辺 大輔)

## 編集後記

今年度も無事に47号の図書館報を発行することができました。沢山の皆様のご協力もあり、素晴らしいものになりました。心より感謝いたします。

- 高校図書委員会
- 委員長 209H 北出ひまり
- 副委員長 209H 宮西 智子